

my Photo Life  
since 2025



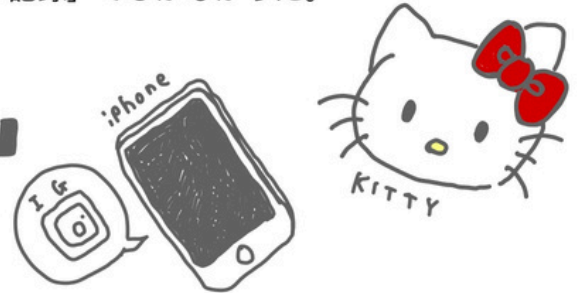


## 「はじまりは、キティちゃんのカメラ」

中学生の私の手には、サンリオキャラクターの小さなカメラがあった。フラッシュを焚くか焚かないか、それだけが唯一の設定。構図なんて知らない。でも時々、偶然にも美しい色が写っていると、心が踊った。

撮った写真の上にポストカで落書きをするのが流行っていて、無印良品の透明なフォトアルバムを鞆に忍ばせて歩いていた。あの頃の私にとって、写真はまだ「記録」でしかなかった。

## 「iPhone X Instagramとの出会い」



転機はiPhoneの登場だった。

「写真を撮る」ことのハードルが、ぐんと下がった瞬間。そして運命的な出会い、Instagram。iPhoneで撮った何気ない写真にフィルターをかけると、まるで魔法みたいに世界が変わって見えた。

加工アプリを次々とダウンロードして、家にある何の変哲もない物たちを華やかに変身させることに夢中になった。

Instagramで見つけた憧れの写真たち。玉ボケ、透き通る花びら…「いつか私も、こんな写真を撮ってみたい」

そんな想いが、胸の奥でくすぶり始めた。



## 「デジタル一眼カメラとの出会い」

読書中、思考があっちこっちに飛んでしまう私。ある日の本の中で、全く関係のないイメージが頭を埋め尽くした。

私がカメラマンで、可愛い女子たちを撮っている。みんなでわちゃわちゃと楽しそうにしている…

「デジイチが欲しい！」

思い立ったが吉日。Instagramで情報収集を重ね、ついに見つけたのがFUJIFILM X-A5。決め手は「色味が好き」という声、愛らしいボディデザイン、そして手の届く価格。

給付金という背中押しもあって、ついに私の相棒が決まった。





## 「物撮りからの挫折」

家の中のアクセサリーや手帳グッズを撮ることから始まった。iPhoneとは違うボケ具合に感動！でも、標準ズームレンズでは理想のボケには程遠く…

水族館へ出かけてみたものの、オートとAモードしか使えない私には理想の写真は撮れなかった。F値、シャッタースピード、ISO…数字が大の苦手な私 の頭は完全にこんがらがった。

「こりゃだめだ」

写真教室に通うことを決意した。



デジカメと変わらんやん…



なんこれ笑



撮るのは、家にある小物等ばかり。



レタッチも出来ないし、適正露出も意味不。



上手いからないからこそ上達したいと思う！  
あれもこれも撮ってみたいっ！  
”写真が撮りたい”目的でお出かけすることが  
少しずつ増えてきたのもこの頃から。

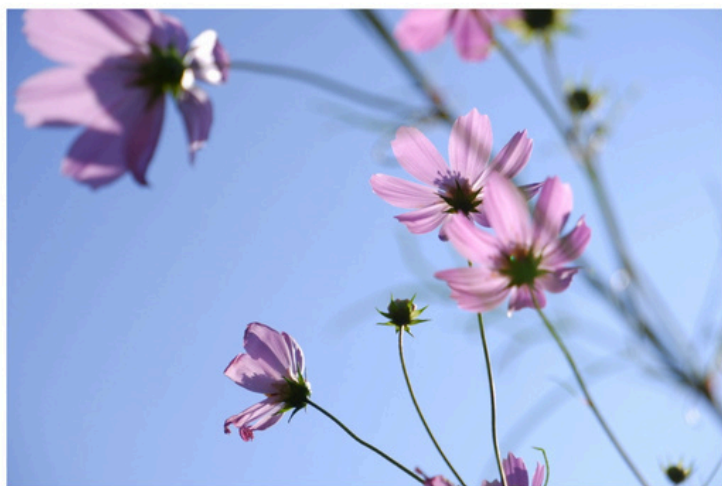


## 「写真教室」 2020.9～

関西の写真教室に入会。座学と実習を織り交ぜたスタイルで、撮影旅行もある本格的な教室だった。

体験会で驚いたのは、参加者の年齢層の低さ。多分、私が最年長だったんじゃないかな。周りは仲良しグループを作って、プライベートでも撮影に出かけていたけれど、関係性の構築に時間がかかる私はなかなかその輪に入れずにいた。

それでも課題はこなし、写真集を作ったり、卒業制作展示をしたり。良い経験にはなったけれど、F値、シャッタースピード、ISOの関係は理解できないまま退会。相変わらずAモード止まりだった。



憧れの透き通る花びらと、玉ボケ。

初めての实習では、「写真ってこんなにもエネルギー使うんだ…」と、驚いた。理想とする写真を撮ることがこんなにも難しいと思わなかった。



今、見返すと、本当にひどい。

けれど、そう思えるという事は、あの頃より少しは成長したのかな。と思う反面、この時だから撮れた写真だとも思う。



↓期の最終課題の展示会に展示した一枚。





# 「マクロレンズとの出会い」 2021.6~

カメラマンの友人のアドバイスで購入したXF60mmF2.4macro。

手帳の紙面撮影をしていた私にぴったりのレンズだった。標準レンズと比べて、めちゃくちゃボケる！当時の私にとって「エモい写真＝ボケが綺麗な写真」だったから、もうメロメロ。

ただし難点は焦点距離。60mmって何？35mm換算で約 90mm？中望遠レンズ？

なんのこっちゃ！（笑）

「ボケるのはいいけど、食べ物撮影は近すぎて撮れない」という事態が発生。それでもポートレートは綺麗に撮れたし、寄りもできて、素晴らしいレンズだった。



1.マクロレンズが活きた1枚。文具との相性は良かった。2.自席で目の前の食べ物を写すようになる。3.ポートレート向きレンズ✨とろけるようなボケ感✨4.近付くのが難しいシチュエーションには撮りやすい焦点距離。5.マクロレンズと言えば…こういうの撮りたくなるよね。

なかなかの  
ゴツめな  
BODY!



The Earth is art, The photographer is only a witness.





# 「オンライン写真教室入会」 2023.11～

Instagramの広告から無料レタッチ講座に申し込んだら、あれよあれよとオンライン写真教室に入会。ビジネスの導線設計、恐るべし！

ここではメンター制度で、月に一度マンツーマンの面談があった。

「こんな写真が撮りたい！」

その想いに向かって、どうやったら理想に近づけるか。メンターにサポートしてもらいながら学んでいく。

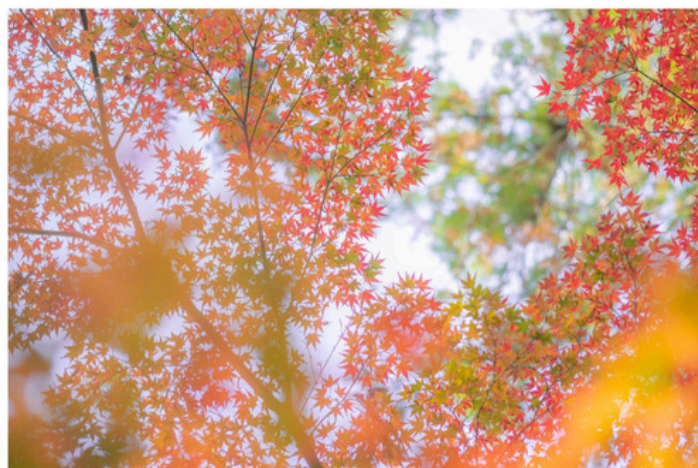
ここで知った革命的な考え方：「写真はセンスではなく知識」

センスがなくても知識でなんとかなるかもしれない...希望の光が見えた瞬間だった。

レタッチ技術も向上し、「自分の色」を表現できるようになって楽しくなった。でも、「コミュニティ特有の色」「○○っぽさ」が強く感じられて、型にハマることを極端に嫌う私は違和感を無視できなくなった。

そして撮影技術は、まだAモード止まり。

→ここで学ぶまでは、スマホアプリを使って、なんとなく明るさを調整したりはしていたけれど、レタッチについて学び、意図を持って自分が表現したい色味を表現できるようになり、楽しくなった。



←ここで同じ班になった人と、写真を撮りに出かけた日、カメラグッズ等を取り扱うお店に立ち寄った時に運命の出会いがあった。この出会いは間違いなく写真欲が高まった要因のひとつ。『なついろパンチフィルター』との出会い。お店で試させてもらった時の高揚感は今でも忘れない。

↓このフィルターを通す事で写し出される色味がすごく好きだった。



写真をお仕事にすることを考え出し、x-A5を手放し、フルサイズ機に買い替えました。





## Camell town 入村 2024.4 ~

オンライン教室を離れても、一人では写真を撮る機会が減ってしまう。そんな懸念を抱いていた時、またもやInstagramの広告に現れたのが「Camell town」。  
月額料金の良心的な価格（なんと3,500円！）と、色んな場所へ行く機会がありそうだと感じて参加を決めた。

公式キャラクター  
まめる

### 東京スタジオでの衝撃体験

入会早々、東京・亀戸のスタジオへ。

午前中：アクリル水槽を使った撮影

午後：「ファッション誌のような世界」撮影



濃密すぎるスケジュール！こういう"世界観"のある撮影は今まで経験したことがなくて、  
**「私はこういうことがしたかったんだ！」**

と気づいた瞬間だった。

朝から撮影しっぱなしで、午後の後半は思考停止状態。ただただ目の前の美しい世界に魅了されて夢中でシャッターを切り続けた。モデルさんのヘアメイクから、セットの飾り付けまで自分たちで作り上げる作業は、まるで学生時代の文化祭みたいだった。



▲「アクリル水槽を使った撮影」アクリル水槽を使うだけでこんな素敵な写真を撮れることに感動 ✨

▼セット作りからヘアメイクまで自分たちで作りました。





## 「Camellで感動したポイント」

- ★ 圧倒的コスパ月額3,500円なのに、プリセット無料プレゼントやオフライン、オンラインともに企画が盛りだくさん。毎週のように全国各地で企画が開催されている。
- ★ 個性を大切にする文化 写真を学ぶというより、個性を大事にしつつ、自分の撮りたいものを突き詰めていく感じ。
- ★ 東京スタジオ スタジオを使ったオフライン企画が多数。オンラインイベントも充実。
- ★ 特別な体験 ができる機会がいっぱい！ホテル宿泊や着物レンタルなどがお得になったり、自分で行動するには少しハードル高く感じることもみんながいるから体験できた。
- ★ 素敵な仲間たちとの出会い。好きなものが似ているからか、参加者がみんな優しく、すぐに仲良くなれてしまう。



1. 着物を着て京都の写真映えスポットを巡って撮影。着物を着たの、何気に初体験！ 2. 初めての星空撮影。車中泊なんて、何年振り?! 3. オリジナルお茶作り体験。普段身近な緑茶だけど、知らないことを沢山学ばせてもらった体験になりました。 4. 「篠山城下町ホテル NIPPONIA」さんとのコラボ企画。なんと1泊2日1棟貸スイート2食付きを60%offで宿泊させて頂いていただきました！

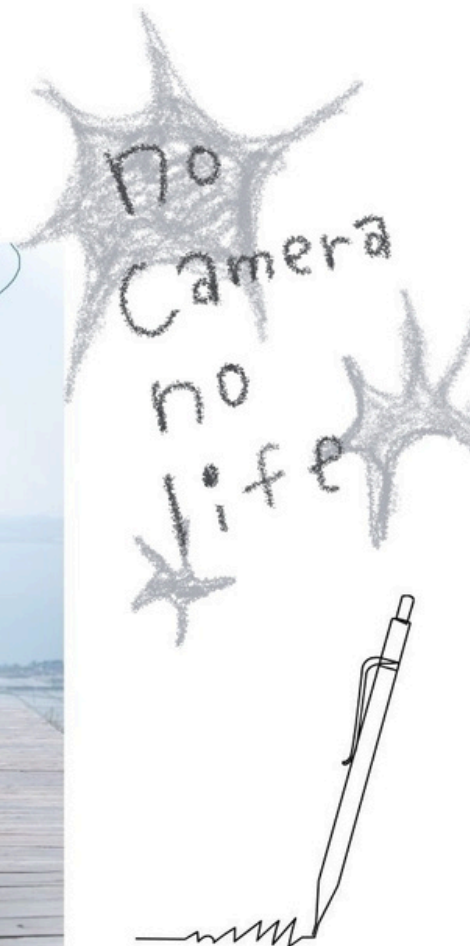


## 「私に起きた変化」

表現の幅が劇的に広がった。

毎月何かしらの企画が進行していて、みんなで一つのお題で写真を撮ったり、一人では思いつかないような挑戦ができる。個性豊かな参加者からインスピレーションをもらって、色んな表現方法を発見。

- ① オフライン企画レポートを雑誌風に紹介
- ② 写真に手描きの絵を描く
- ③ 写真を使った物作り
- ④ 自分たちで写真展開催



そして何より印象深いのが、ワークショップを通して自分が表現したいものが何なのかがわかったこと。テーマを持って撮れるようになった！憧れていたことだから、本当に嬉しい。

まばゆくない、まばゆさ

誰の期待も背負っていない私。





誰のためでもない呼吸。



**mabayukunai mabayusa**

Just being there is enough  
It's beautiful in every way.

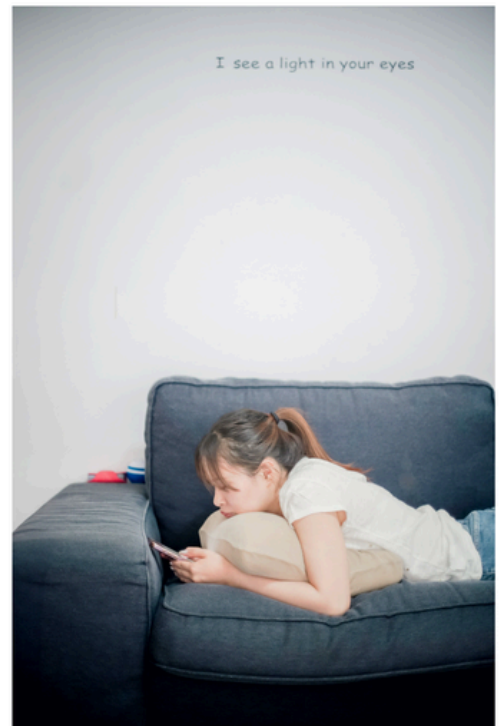
無理に笑う必要もない。



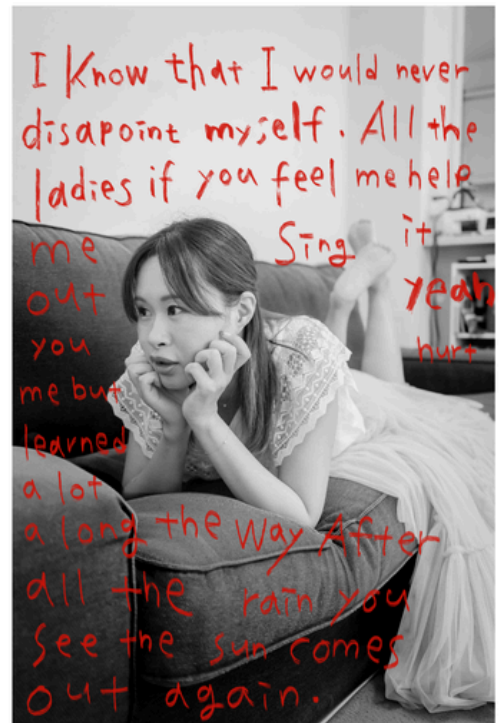
**mabayukunai mabayusa**

Just being there is enough  
It's beautiful in every way.

どこにも向かおうとしない時間の中でも  
「わたし」は存在している。



——  
ねえ、それでも、ちゃんと生きてるよ。





柔らかく、  
あたたかい光が、  
確かにある。



静かなまばゆさが、  
ここにある。

fin

## 「忘れられない台湾企画」

コミュニティ初の海外企画で台湾へ。初めての台湾で、初めての経験だらけ。濃厚すぎて、この企画だけでブログ1本書けるくらい（いつか書きたい！）。



## 「私のこれから」

今年からエリアキャストに登録しました。これからは企画する側にもチャレンジしていきます。

私の「やってみたい」が、誰かの写真ライフを輝かせる一助になったら嬉しい✨





写真とは私にとって、記録であり  
遊びであり、そして差し出せるものでも  
あり、喜びでもあり、表現ツールの1つ  
でもあり、原動力でもある。  
これから先私を彩り豊かに  
する重要な役割を担ってくれる存在  
であることは間違いない。

THE END

Thank you for reading!







My journey with photography continues...